

1 学校教育目標

学ぶ 鍛える 思いやる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	持続可能な社会の実現に向けて 社会の変化に対応し進化し続ける学校 安心・安全な学校
○児童・生徒像	豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となる生徒の育成 1 文章や情報を正確に読み解き、対応する力をもつ生徒 2 様々な分野に対して好奇心、探求心をもつ生徒 3 他者の意見を受容し、調整する力を身につけた生徒 4 困難なことを乗り越える力をもつ生徒 5 価値を見つけ出す感性と力を備えた生徒
○教師像	持続可能な社会の創り手の一員として、多様性を受け入れ、新たな価値を創造する教師 Society5.0 を生きる生徒を育てる教師 学び続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状と課題
 予測困難な未来社会を牽引する人材となる生徒には、新しい価値を創造する力が求められる。多様性を受け入れ、協働し、価値を創造する力の育成には、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることが必要であり、その上で思考力・判断力・表現力が育まれていく。
 本校生徒は、学習意欲や自己肯定感が高いが、各種学力調査の結果は満足できるものではない。基礎基本の定着と読解力向上の取り組みを継続させ、主体的な学びの活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成していく。
 また、学びの意欲が向上する基盤となるのは生活規律の確立、規範意識の醸成が重要である。引き続き、生活指導の徹底を図りたい。

2 成果
 生徒の学力向上には、教師の授業改善・授業力向上が不可欠である。教師の授業観察週間と研修の実施は今後も継続していく。A I ドリル、I C T 機器、Google work space for Education を教育活動全般に取り入れ、G I G A スクール構想を進めることができた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	支援の必要な生徒、不登校生徒への継続的支援	○	○	○	○	○
3	生活規律の確立、規範意識の醸成	○	○	○	○	○
4	支援の必要な生徒、不登校生徒への継続的支援	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの基礎と学習意欲の向上		学びの基礎の向上3%上昇 年度末到達度テスト正答率50%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AIドリルの活用	5教科 (国数英社理) 全学年	通年 週1回	朝学習、放課後補充等でAIドリルを活用する。	活用頻度の確認 区学力調査意識調査 生活アンケート	学びの基礎の向上。該当項目3%上昇			
2 継続・新規	Google workspace for Educationの活用 NIE・読書活動の推進	5教科 (国数英社理) 全学年	通年	各教科の特性や単元の性質にあわせ、classroom、Formes、Meetを活用し、ハイブリッド型の学習を推進する。 読解力向上のため、NIE、朝読書を継続する。	活用頻度の確認 区学力調査意識調査 生活アンケート 各種コンテスト	学びの基礎の向上。該当項目3%上昇			
3 継続	教員の授業力向上の取組	全教科 全学年	通年	全教員 足立スタンダードの徹底。 十三中スタンダードによる授業観察週間の設定と振り返り研修の実施。 小中連携を軸とした授業研究。 ICT機器・ツールの積極的活用。	生徒による授業アンケート	「めあて」「まとめ」の実施100% 「指示や説明のわかりやすさ」80%以上。 「学ぶ楽しさ」80%以上。			

重点的な取組事項－２		支援の必要な生徒への継続的支援			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
支援を要する生徒の情報共有 特別支援教室の円滑な運営 不登校生徒への継続的な支援		関係諸機関との円滑な連携 特別支援教室退級見込み生徒の増加 教室復帰を目指せる生徒の増加			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
支援の必要な生徒に対する情報共有と適切な支援の提供	支援の必要な生徒の居場所作り 外部専門機関との円滑な連携体制の構築	定期的な特別支援教育委員会の開催。 S C、S S Wと連携した多面的なカウンセリングと支援。 外部専門機関との適切な連携（ケース会議等の開催）			
特別支援教室の円滑な運営と連携体制の構築	取り出し授業の円滑な実施。所属学級担任との十分な情報共有と連携。退級見込み生徒の増加。	特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育委員会等での情報共有と調整。円滑な個別支援計画の作成と実施。			
不登校生徒に対する継続的な支援	教室復帰を目指せる生徒の増加。	S S W、登校サポーター、チャレンジ学級等の活用。個別対応を要する生徒の居場所の確保と学習支援を行うS S ルームの組織的な運営。			

重点的な取組事項－３		生活規律の確立、規範意識の醸成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活規律の確立、自己肯定感、自己有用感、帰属感の醸成		生活アンケート等による該当項目前年度比現状維持～３％上昇			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
安心・安全な学校生活を送るために生活規律の徹底	生活アンケート「あいさつ、服装、持ち物などについて、学校のきまり」を守っている９０％以上。	生活指導の徹底。 生徒会執行部や学年委員会を中心に、生徒の主体的な活動を取り入れた生活規律徹底のための活動を展開。			
情報モラルの醸成	生活アンケートにおけるSNSトラブルに巻き込まれたことがある生徒の割合１０％以下	セーフティ教室を軸とした情報モラル教育の実施と保護者への啓発活動の実施。			
いじめ防止に向けた取組の実施と早期発見早期対応	いじめアンケートによるいじめの申告が各学年３％以下を目指す	休み時間等の巡回。生徒の見守りを常に行い、早期発見早期対応につなげる。 QUアンケートの結果分析とQU研修会の実施。 SC・SSWとの連携 生活指導部、いじめ防止対策委員会を中心とした組織マネジメントによるいじめ対応。 外部機関との適切な連携。			

重点的な取組事項－４		学校、家庭、地域の協働による生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
地域人材を活用した教育活動の実践 地域への帰属感・誇りの醸成		生活アンケート「地域に貢献できる大人になりたい」60%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域人材を活用した キャリア教育の実践	保護者アンケート「学校はキャリア教育によく取り組んでいる」の「わからない」を5%減少	開かれた学校づくり協議会を中心とした地域人材による「職業人の話を聞く会」（1年）マナー講座（2年）、面接指導（3年）等の実施。 キャリア教育に関する情報発信。			
地域と協働した活動の推進	生活アンケート「地域に貢献できる大人になりたい」60%以上	生徒会執行部を中心としたペットボトルキャップの回収。 全校生徒による地域清掃活動 各種委員会や部活単位の体験活動やボランティア活動。 PTA・地域主体の「あしの芽祭」への参加。 PTAと生徒会の協働によるあいさつ運動の実施。			